

※左右どちらから始めるかはお任せ致します。

※仮に右から。

「あくびなんかして、眠くなっちゃった？」

「え？ 昨日、面白い動画を見て夜更かしちゃったの？ いつも、早く寝なさいって言ってるのにー」

「母親みたいな事を言うなって？ うーん、母親は心外だな～ せめてお姉ちゃんって言ってほしいよ」

「俺にとっては、妹みたいな存在？ うっそー！ 絶対、わたしの方が上だよ！」

「ううう、この話は今度決着付けようじゃない！」

「昼寝するの？ え！ ？添い寝してほしい？ ふふふ、しょうがないな～ ホント甘えん坊さんなんだから～」

「添い寝しながら、最近、同人で流行のささやきと、耳吹きかけをしてほしいの？ ふ～ん、そういうの好きなんだ？」

「じゃあ、ベットに横になってね」

※以降の会話は「ささやき」でお願いします。

「それじゃ、まずは耳に吹きかけるね？」

※耳吹きかけ（約30秒）

「ふふふ、気持ちいいんだね？ 体、びくびくって震てるよ？」

「次は反対側をやってあげるね？」

※左右逆転

「それじゃ、行くよー」

※耳吹きかけ（約30秒）

「あなたって、可愛い声出すんだね？ ふふふ」

「え？ ささやきながら好きって言って欲しいの？ うん、いいよ」

※好きを連続で言ってください。バリエーションや速度はお任せします。

※時間は2分くらいで1分ずつ左右に行ってください。

「顔、赤いよ？」

「心臓が止まりそうなくらいドキドキしてるの？ふふふ、大げさだなあ」

「でも、そんなにドキドキしてくれるなんて嬉しいな」

「あ、そうだね。告白はあなたからしてくれたからしてくれたもんね。好きってわたしから言う機会はあまりなかったかも」

「ねえ、いつからわたしのこと好きでいてくれたの？」

「え？幼稚園から？そんな小さいころだったんだ……」

「わたしはね。中学2年の時なんだ。それまではただの幼なじみとしか思ってなくて」

「ちょっとお。いじけないでよお。だって小学生までは男女仲良かったし、ね」

「好きになったきっかけ？」

「なんで中学2年の時か、ちょっとだけ考えてみてよ？」

「わかった？え？分からなの？」

「もうお、なんで分かんないのかなあー」

「中学2年の時の文化祭覚えてる？」

「あ……。思い出した？」

「そうだよ。前日準備のトラブルでおそくなって、夜の9時回っちゃって。先生も残っててくれたけど外も真っ暗になっちゃったんだよね」

「あなたは先に帰ってたのに、わざわざ教室まで来てくれたんだよね。帰り道、危ないだろって」

「あの時、照れながら迎えに来てくれたの、嬉しかったんだよ？^{うち}家の方って夜になるとちょっと寂しくなるからね」^{うち}家の方って夜になるとちょっと寂しくなるからね」

「あの日、並んで一緒に帰ったのきっかけ。あの時のあなたがとても頼もしく思えて、ね。

初めて幼なじみの男の子から一人の男の子なんだなって意識したんだよ？」

「ねえ、あの時どうして迎えに来てくれたの？」

「え？ 好きな子が一人で頑張ってるんだから帰りぐらいは守ってやりたかった。ふふふ、カッコいいんだから」

「照れちゃって可愛い」

「ん？ 耳吹きかけの続きをしてほしい？ いいよ」

「それじゃ、行くよー」

※耳吹きかけ（約30秒）

「反対側も」

※左右逆転

「それじゃ、行くよー」

※耳吹きかけ（約30秒）

「ふふふ、またびっくとして可愛い、ね」

「ねえ、こんなことしてたら興奮しちゃって寝られないんじゃない？」

「そんなことはないの？」

「ふーん。顔はとろーんとしてるけど眠そうには見えないんだけど」

「気持ちいいから寝られそう？」

「でも、あなただけ気持ち良くなって寝るなんてなんかしつくりこないなー」

「今度やってあげる？ うーん、まあそれならいいかな？」

「じゃあ、また吹きかけるよー」

※耳吹きかけ（約30秒）

「それじゃあ、反対側に変えてっと」

※この時、声が移動しながら左右逆転してください。

「それじゃ、ふー」

※耳吹きかけ（約30秒）

「あれ？本当に寝ちゃったの？」

「ふふふ、こんな顔で寝るんだね」

「幸せそうにで可愛い寝顔」

「あーあ、一人だけ寝ちゃって。羨ましい」

「それじゃ、お隣失礼してっと。わたしも寝よっと」